

さいたま商工会議所 中小企業景況調査報告書（要約版）

【2021年1-3月期／さいたま市域】

さいたま商工会議所

《調査結果のポイント》

景況感厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる

- ・ 全産業の業況判断D Iはマイナス幅がやや拡大した。(▲25.4→▲25.9)
 - ・ 全産業の売上額D Iはマイナス幅が拡大した。(▲24.6→▲40.5)
 - ・ 全産業の経常利益D Iはマイナス幅が縮小した。(▲41.0→▲34.5)
- (1) 全産業の業況判断D Iは▲25.9（前期差▲0.5ポイント）となり、マイナス幅がやや拡大した。
産業別では、製造業は▲7.1（前期差+0.6ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。非製造業は▲28.4（前期差▲0.9ポイント）でマイナス幅がやや拡大した。
来期（2021年4-6月期）の全産業予想業況判断D Iは▲23.3（前期差+2.6ポイント）でマイナス幅が縮小の見通しである。
 - (2) 全産業の売上額D Iは▲40.5（前期差▲15.9ポイント）でマイナス幅が拡大した。
産業別では、製造業は▲21.4（前期差▲29.1ポイント）でマイナス幅に転じ、非製造業では▲52.0（前期差▲11.1ポイント）でマイナス幅が拡大した。
 - (3) 全産業の経常利益D Iは▲34.5（前期差+6.5ポイント）でマイナス幅が縮小した。
産業別では、製造業は▲28.6（前期差+40.6ポイント）でマイナス幅が大幅に縮小し、非製造業においては▲41.9（前期差+2.3ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。
 - (4) 全産業の原材料仕入単価D Iは8.6（前期差+4.5ポイント）でプラス幅が拡大した。
産業別では、製造業は14.3（前期差▲8.8ポイント）でプラス幅が縮小した。非製造業は16.9（前期差+15.7ポイント）でプラス幅が拡大した。
 - (5) 全産業の資金繰りD Iは▲16.4（前期差+1.6ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。
 - (6) 今期設備投資を実施した企業割合は全産業では19.8%（前期差▲7.2%）と減少している。
来期設備投資を計画している企業の割合は23.3%と今期実績から増加している。
 - (7) 全産業の従業員数過不足D Iは▲6.9（前期差+7.0ポイント）で「不足」感が縮小した。産業別では、製造業は▲7.1（前期差▲22.5ポイント）で「不足」へ転じた。非製造業は▲2.9（前期差+13.7ポイント）で「不足」感が縮小した。
- (注1) D Iとは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

[調査要領]

本調査は、さいたま商工会議所管内の景気動向を把握するために、会員事業所の協力を通して四半期毎の景況をアンケートの方法によって調査し、集計値をD I（注）で示したものである。

- (1) 調査対象期間 2021年1月1日～3月31日
- (2) 調査時期 2021年3月1日～3月31日
- (3) 回収状況 さいたま商工会議所の会員事業所で調査対象数230のうち有効回答数116（有効回答率50.4%）

1. 業況判断D I (「好転」－「悪化」前期比)

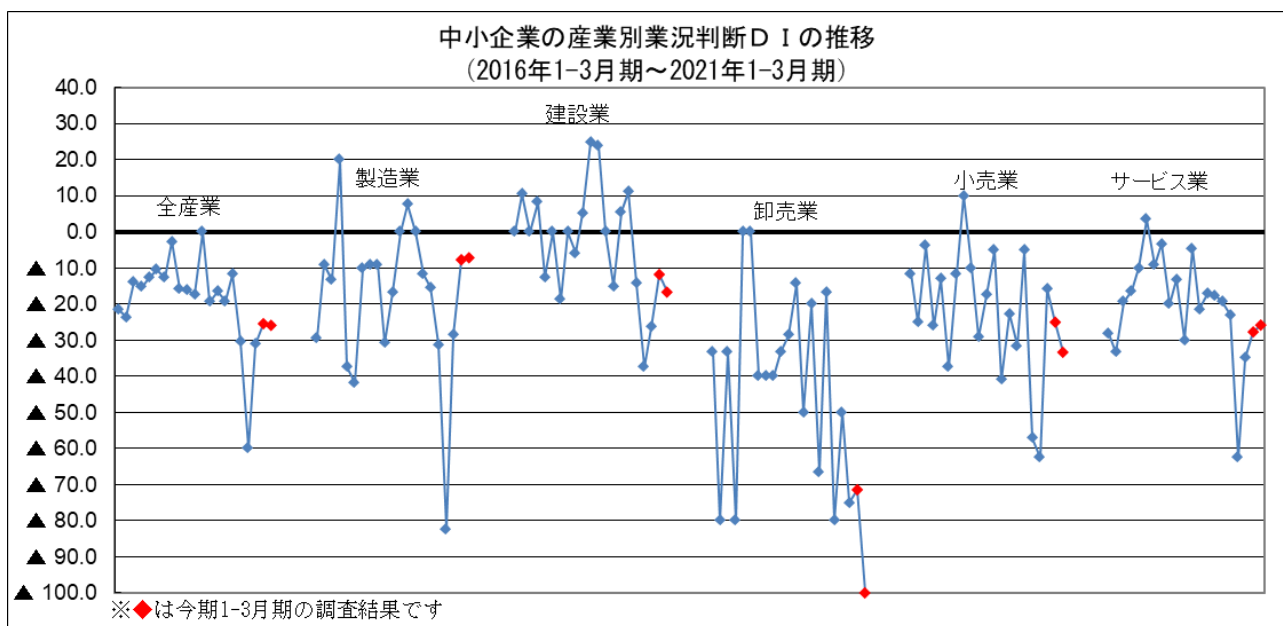
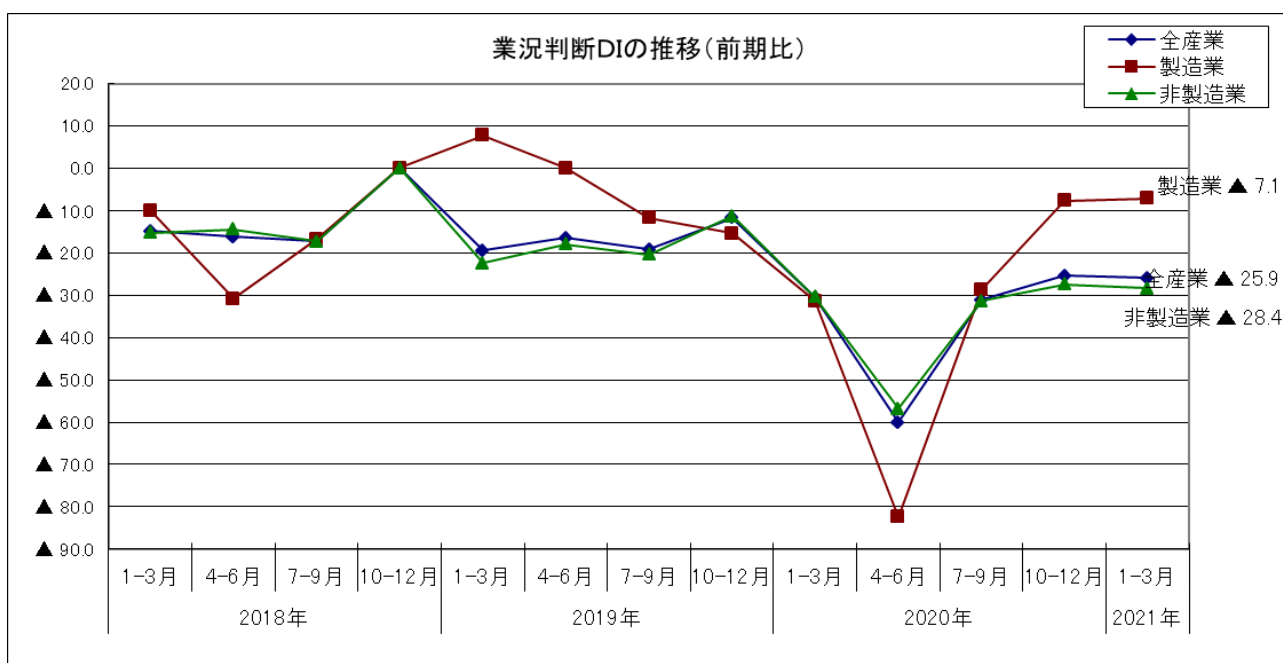
(1) 全産業

2021年1-3月期の全産業の業況判断D Iは▲25.9(前期差▲0.5ポイント)となり、マイナス幅がやや拡大した。

来期の全産業予想業況判断D Iは▲23.3(前期差+2.6ポイント)でマイナス幅が縮小の見通しである。

(2) 産業別

産業別では、製造業の業況判断D Iは▲7.1(前期差+0.6ポイント)でマイナス幅がやや縮小した。非製造業(建設業、卸売業、小売業及びサービス業)は▲28.4(前期差▲0.9ポイント)でマイナス幅がやや拡大した。業種別では、建設業は▲16.7(前期差▲4.9ポイント)、小売業は▲33.3(前期差▲8.3ポイント)でマイナス幅が拡大した。卸売業では▲100.0(前期差▲28.6ポイント)でマイナス幅が大幅に拡大した。サービス業は▲25.8(前期差+1.9ポイント)でマイナス幅が縮小した。



2. 売上額D I（「増加」－「減少」前期比）

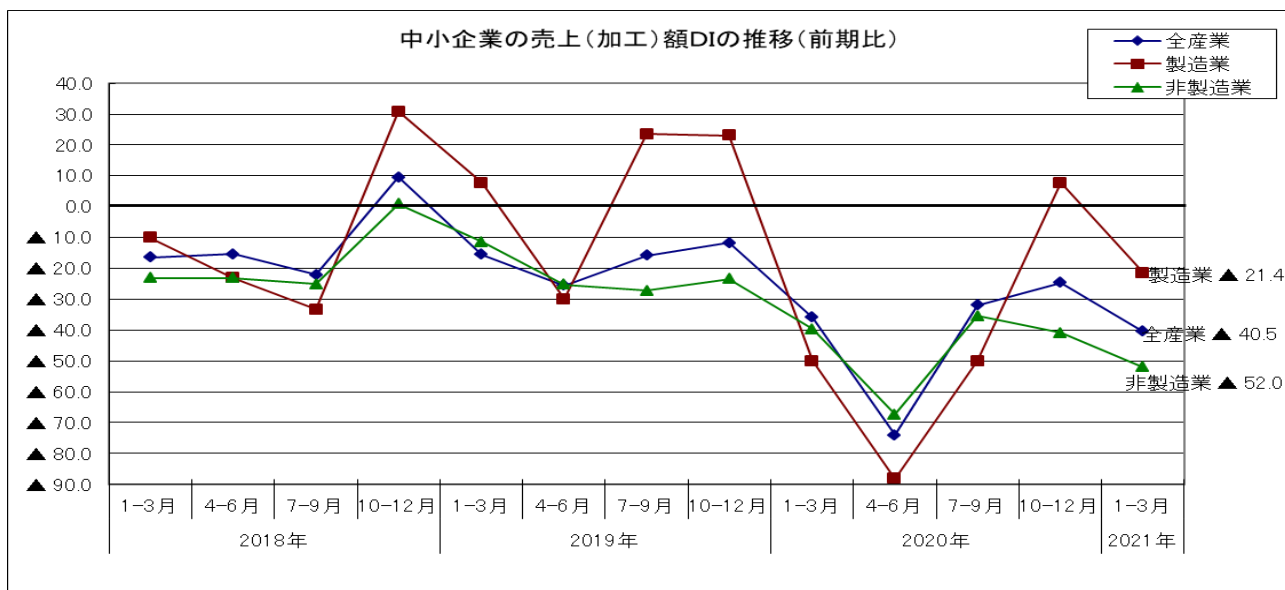
(1) 全産業

2021年1-3月期の全産業の売上（加工）額D Iは▲40.5（前期差▲15.9ポイント）でマイナス幅が拡大した。

(2) 産業別

産業別では、製造業は▲21.4（前期差▲29.1ポイント）でマイナス幅に転じ、非製造業は▲52.0（前期差▲11.1ポイント）でマイナス幅が拡大した。

業種別では、建設業は▲38.9（前期差▲15.4ポイント）、卸売業は▲75.0（前期差▲3.6ポイント）、小売業は▲55.6（前期差▲5.6ポイント）でマイナス幅が拡大した。サービス業は▲38.7（前期差▲20.2ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。



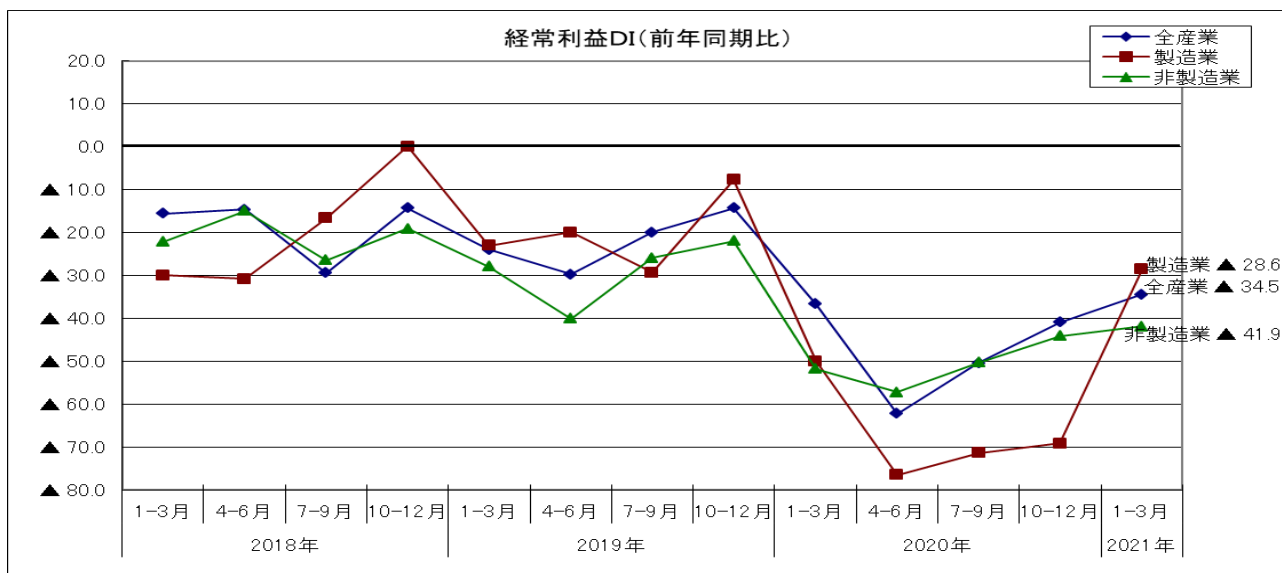
3. 経常利益D I（「好転」－「悪化」前年同期比）

(1) 全産業

2021年1-3月期の全産業の経常利益D Iは▲34.5（前期差+6.5ポイント）でマイナス幅は縮小した。

(2) 産業別

産業別では、製造業は▲28.6（前期差+40.6ポイント）でマイナス幅が大幅に縮小し、非製造業は▲41.9（前期差+2.3ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。



4. 原材料仕入単価D I（「上昇」－「低下」前年同期比）

原材料仕入単価D Iは、全産業では8.6（前期差+4.5ポイント）でプラス幅が拡大した。業種別では、製造業は14.3（前期差▲8.8ポイント）でプラス幅が縮小した。建設業は16.7（前期差+4.9ポイント）、サービス業は6.5（前期差+3.4ポイント）でプラス幅が拡大した。卸売業は50.0（前期差+50.0ポイント）でプラス幅が大幅に拡大した。小売業は▲5.6（前期差+4.4ポイント）でマイナス幅が縮小した。

5. 在庫水準D I（「過剰」－「不足」今期の水準）

在庫水準D Iは全産業では▲8.3（前期差+11.7ポイント）で「不足」感が縮小した。業種別では、製造業は±0.0（前期差±0.0ポイント）で変わらずであった。卸売業は▲25.0（前期差+17.9ポイント）、小売業は▲11.1（前期差+13.9ポイント）で「不足」感が縮小した。

6. 資金繰りD I（「好転」－「悪化」前期比）

全産業の資金繰りD Iは▲16.4（前期差+1.6ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。産業別では、製造業は▲14.3（前期差+1.1ポイント）、非製造業は▲19.5（前期差+1.4ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。

7. 借入難易度D I（「容易」－「困難」前期比）

全産業の長期資金借入難易度D Iは2.6（前期差▲3.1ポイント）で「容易」幅が縮小した。また、短期資金借入難易度D Iは3.4（前期差▲2.3ポイント）で「容易」幅がやや縮小した。

産業別にみると、製造業では長期資金は「容易」幅が縮小し、短期資金も「容易」幅が縮小した。非製造業では長期資金は「容易」幅がやや拡大し、短期資金も「容易」幅がやや拡大した。

8. 設備投資動向

今期設備投資を実施した企業の割合は全産業では19.8%（前期差▲7.2%）と減少している。

業種別では、製造業は42.9%（前期差▲10.9%）、建設業は22.2%（前期差▲13.1%）、サービス業は16.1%（前期差▲10.1%）で減少している。卸売業は25.0%（前期差+10.7%）、小売業は11.1%（前期差+1.1%）で増加している。

来期設備投資を計画している企業の割合は全産業では23.3%と今期の実績値から増加の見通しであり、前年同期の実績値（2020年1-3月期、19.5%）を上回っている。

9. 従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」今期の水準）

従業員数過不足D Iは全産業では▲6.9（前期差+7.0ポイント）で「不足」感が縮小した。

産業別では、製造業は7.1（前期差▲22.5ポイント）で「不足」へ転じた。非製造業は▲2.9（前期差+13.7ポイント）で「不足」感が縮小した。業種別では、建設業は▲22.2（前期差+1.3ポイント）、サービス業は▲3.2（前期差+15.3ポイント）で「不足」感が縮小した。卸売業は▲25.0（前期差+39.3ポイント）で「過剰」へ転じた。小売業は▲11.1（前期差▲1.1ポイント）で「不足」感が拡大した。

10. 経営上の問題点

製造業では「製品ニーズの変化への対応」「熟練技術者の確保難」、建設業では「熟練技術者の確保難」、卸売業、小売業、サービス業では「需要の停滞」が第1位になっている。

第2位には、建設業では「民間需要の停滞」、卸売業では「仕入単価の上昇」小売業では「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業では「利用者ニーズの変化への対応」がそれぞれ挙げられている。